

ほとめき

平成 26 年
創刊号

「ほとめき」とは筑後の方言で「おもてなし」という意味です。
書：院長 田中 真紀



当院の理念

地域住民の多様なニーズに応え、安全・安心で心の通う医療を提供する

方針

1. 利用者の尊厳を守り、地域での包括的な医療支援やサービスに努める
2. 地域に密着した公共性の高い医療を目指す
 - ① 地域医療機関との連携を強化する
 - ② 地域に特色のある医療を担う
3. 質の高い医療を提供するために資質の向上に努める

新しいスタート

日頃から地域の皆様方には私どもの施設をご利用いただき心から感謝申し上げます。

平成26年4月、社会保険病院・厚生年金病院・船員保険病院の3つのグループ病院は新しい組織である独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)へと移行し、新しいスタートを迎えることとなりました。

これに伴い68年間にわたって親しんでまいりました病院名称も「久留米第一病院」から「久留米総合病院」と変更することになりました。とく

に病院附属介護老人保健施設(旧プレジールくるめ)は、公的な性格を持った介護施設として機能することになります。病院、健康管理センター、介護老人保健施設を有する施設として、健康に対する予防から治療、福祉に至る三位一体の医療提供を行うとともに、超高齢化社会を迎えての地域医療・地域包括ケアを担う病院を目指します。

勇気を出して病院にお越しいただいた方々に優しく安全で質の高い医療を提供することは病院の大切な使命です。その医療の質を向上させるには医療者各人の力を存分に発揮できる職場環境をつくることも大切な要素の一つと考えております。医師だけで医療を行うわけではありません。医師、看護師、薬剤師、技師などが同じ目的を持って専門性を生かしながら自信を持って患者さんの治療にあたるチーム医療が必要です。働くことが楽しければ、必ず良質の医療を提供できると信じております。

平成25年から救急告示病院として24時間救急患者さんの受け入れを開始し、同時にきめ細かい医療の提供を目的として総合診療科を設けました。平成14年には全国に先駆けて多くの女性の念願であった女性総合診療科“なでしこ”を開設し、内科医を中心として婦人科医、泌尿器科医、乳腺外科医が診療にあたっています。今後も地域の皆様の様々なニーズに応えていきたいと思っています。

当院は久留米大学医学部の教育関連病院、臨床研修協力病院として多くの医師が派遣されており最先端の医療を提供しています。また大学病院をはじめとして地域の病院・診療所とも連携しながら診療を行っております。医学部、薬学部、看護学校などからの学生受け入れ実習機関としての役割も果たしています。

4月より待望の診療棟建設も始まりしました。平成27年秋に完成予定です。今後、益々地域に貢献し続ける病院でありたいと願っております。これまで同様にご支援をよろしくお願いいたします。



平成26年5月
院長 田中 眞紀

JCHO の概要

設立目的

独立行政法人地域医療機能推進機構（Japan Community Health care Organization:JCHO）は病院、介護老人保健施設等の運営を行い、救急医療・災害時における医療・へき地医療・周産期医療・小児医療、リハビリテーションその他 地域において必要とされる医療機能の確保を図り、もって公衆衛生の向上・増進や住民福祉の増進に寄与することを目的としています。

設立時期

平成 26 年 4 月 1 日

理事長

尾身 茂

施設

病院：57 施設 介護老人保健施設：26 施設 地域包括支援センター：10 施設
看護専門学校：7 施設 研修センター：1 施設

職員数

約 2.8 万人

使命

- (1) 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢化社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます。
- (2) 地域医療の課題の解決・情報発信を通じた全国的な地域医療・介護の向上を図ります。
- (3) 地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民への情報発信を強化します。
- (4) 独立行政法人として、社会的な説明責任を果たしつつ、透明性が高く、財政的に自立した運営を行います。

JCHO ホームページ

www.jcho.go.jp

全国に広がる病院群 JCHO GROUP

● 病院	57
● 健康管理センター	57
● 介護老人保健施設	26
● 看護専門学校	7
● 健康増進ホーム	3
● 研修センター	1

久留米総合病院

 **JCHO 本部**
東京都港区高輪 3-22-12



施設名称の変更について

当施設は平成8年の開設以来、18年の歴史を有し常に地域とのかかわりあいの中で発展してきました。その間、併設する久留米第一病院、健康管理センターと共に『医療・保健・介護福祉』が三位一体となった、切れ目のない包括的な医療・介護サービスを地域住民に提供して参りました。

4月、当施設は久留米総合病院と共に新しい独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO ジェイコー)の一員になりました。

グループ全体の果たすべき使命として「地域医療、地域包括ケア連携の“要”となれる医療人を育成」し、「地域の抱える医療・介護・福祉諸問題の解決に積極的に貢献する」ことが示されています。厚生労働省は、日本の高齢化がピークに達する2025年を目標に「地域包括ケアシステム」と称した地域の保険・医療・介護・福祉をトータルでサポートする体制を構築しようとしています。当施設においても、病院と共に地域におけるこのケアシステムの中核となり、地域と一体となった高齢者ケア、在宅復帰を支援する介護を皆様にコーディネートしていくことをこれからの使命と考え、より安心して安全な質の高い介護サービスを提供していく所存でございます。

地域の皆様に長年慣れ親しまれた“プレジールくるめ”の愛称は使えなくなりましたが、正式名称となった「独立行政法人地域医療機能推進機構 久留米総合病院附属介護老人保健施設」(略称“ジェイコー久留米老健”)として、新たにスタートいたしましたので今後とも皆様のご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新名称

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)
『久留米総合病院附属介護老人保健施設』

略称

『ジェイコー久留米老健』

居宅介護支援事業所

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)
『久留米総合病院附属居宅介護支援センター』

短期入所生活介護事業所

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)
『久留米総合病院附属短期入所生活介護センター』



就任のご挨拶

この度、平成26年4月1日付で永きにわたり久留米第一病院の経営部門を支え続けられた中島俊二事務局長の後任として久留米総合病院の事務局長となりました相牟田 修士と申します。



私自身は、約34年間国立病院、国立病院機構病院の職員として勤務してまいりました。平成16年4月1日に国立病院が特定独立行政法人国立病院機構に移行してから、小倉医療センター、嬉野医療センター、熊本南病院に勤務し、労務管理・病院経営に携わってまいりました。この経験を当院の発展に活かしていきたいと思っております。

赴任して1ヶ月が経過しますが、職員一丸となって難局を乗り越えてきたことを実感しています。この優秀な職員の一員として身を置くことに緊張と責任を感じますし、また嬉しくも思っています。

平成26年4月1日からJCHO久留米総合病院として新たなスタートを迎えました。病院の理念も「地域住民の多様なニーズに応え、安全・安心で心の通う医療を提供する」に新しくなりました。

病院として地域に愛される病院でなければ地域住民の多様なニーズに応えることもできません。それには、そこで働く私たち職員が病院を愛していること、常に病院に何が出来るかを問い続けることが必要ではないかと思えます。

念願であった診療棟建設も4月から始まり、来年秋頃には引っ越しが予定されています。これからは、今以上に職員間の協働・職員個々の努力が必要です。その協働事業を円滑に実施できるよう、各職種間の隙間をうめていくことが事務部門の役割と考えています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成26年5月
事務長 相牟田 修士

第一病院を振り返って

第一病院の歴史は68年前、昭和21年2月に福岡県健康保険第一病院（病床数35床）として開院されたことに始まります。

昭和33年9月には、福岡県社会保険病院協会から全国社会保険協会連合会へ経営委託され、その後、増床を重ね昭和40年5月に病床数200床となり、同年8月に病院名が社会保険久留米第一病院と改称されました。

また、同年10月に鉄筋5階建の本館（現在の東側診療棟）が完成して以来、現在もなお運用が続けられています。



昭和36年の当院 旧本館



旧本館の正面玄関



昭和51年の当院
健康管理棟増設後



平成3年4月
健康管理センター新築

昭和42年には分娩センターが増築され、分娩数が更に増加し、久留米地区有数の産科の病院としてその名をとどろかせました。また、昭和46年に人工透析が開始、昭和51年には本館西側に健康管理棟（現在の西側病棟）増設と発展を遂げ、平成3年4月には健康管理センターが新築落成しました。このことにより、本格的に健診業務が開始されました。

また、高齢化社会に対応すべく平成8年3月には老人保健施設プレジールくるめ（80床）が新築・落成、併せて病院創立50周年記念行事がとり行われました。

平成3年のマンモグラフィー機器導入および平成17年の2台体制導入により、乳腺患者数が飛躍的に増加し現在も発展を続けています。

さらに、平成14年には女性専門外来が開設され女性に優しい病院として高い評価を受けております。

平成17年、女性職員が働きやすい環境作りを目的として院内保育所も設置されました。

その後、第一病院は平成23年全国社会保険協会連合会より独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整

理機構（RFO）へ経営を委託され、平成26年4月には独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整理機構（RFO）が改組し、発足した独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）に移行、病院名称も「独立行政法人地域医療機能推進機構 久留米総合病院」に改称、現在に至っております。

4月からは新診療棟の建設も始まり、今後益々地域医療に貢献し、皆様に信頼される病院となることを確信しています。



平成8年3月
プレジールくるめ新築落成

平成26年5月
顧問 南 浩



現在の診療棟
(撮影：平成25年9月)



新診療棟完成イメージ
(平成27年秋完成予定)



顧問 南 浩

資格

医学博士
日本内科学会認定内科医
日本臨床内科医会専門医
日本腎臓学会専門指導医
日本透析医学会専門指導医

経歴

昭和49年：久留米大学医学部内科学第一講座入局
昭和55年：社会保険久留米第一病院 腎センター部長
昭和57年：東大医科研臓器移植科 国内留学
昭和59年：久留米大学講師（医学部内科学第一講座）
昭和60年：社会保険久留米第一病院 内科部長
平成元年：社会保険久留米第一病院 副院長
平成16年：久留米大学助教授（医学部内科学第一講座）
平成19年：久留米大学医学部臨床教授
平成24年：社会保険久留米第一病院 顧問

歴代院長紹介



初代院長
空閑 浩

(S21.2.15 ~ S25.12.1)



二代院長
木村 律郎

(S26.1.10 ~ S32.3.31)



三代院長
吉住 好夫

(S32.4.1 ~ S39.3.31)



四代院長
今成 敏夫

(S39.4.1 ~ S55.3.31)



五代院長
安部 宏

(S55.5.1 ~ H6.3.31)



六代院長
濱田 悌二

(H6.4.1 ~ H14.3.31)



七代院長
津田 英照

(H14.4.1 ~ H24.3.31)



八代院長
田中 真紀

(H24.4.1 ~ 現在)



新診療棟建設 安全祈願祭を開催

平成26年4月10日（木）、新診療棟建設予定地に於いて安全祈願祭を滞りなく開催させていただきました。

新緑が鮮やかな晴天の下、久留米市長 他、各界の来賓をお招きし、工事関係者、当院関係者出席のもと、無事に式典を終えることができました。

新診療棟は、これまでと位置を変え櫛原バイパス沿いに正面玄関を構え、地上5階・地下1階、病床数175床として建設、平成27年秋完成予定です。

ご近所の皆様や当院をご利用の皆様にはしばらくの間ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。



新体制の幕開け

平成26年4月1日（火）新体制スタートの朝は、全職員が大会議室に集まりました。JCHO 尾身理事長のメッセージを受け、田中院長からの開業宣言がありました。

超高齢化社会を迎えた今、JCHOの理念に沿い、地域医療・地域包括ケアを担う病院を目指し、病院・健康管理センター・介護老人保健施設を有する施設として、健康に対する予防から治療、福祉に至る三位一体の医療提供を行うことを目指していきます。

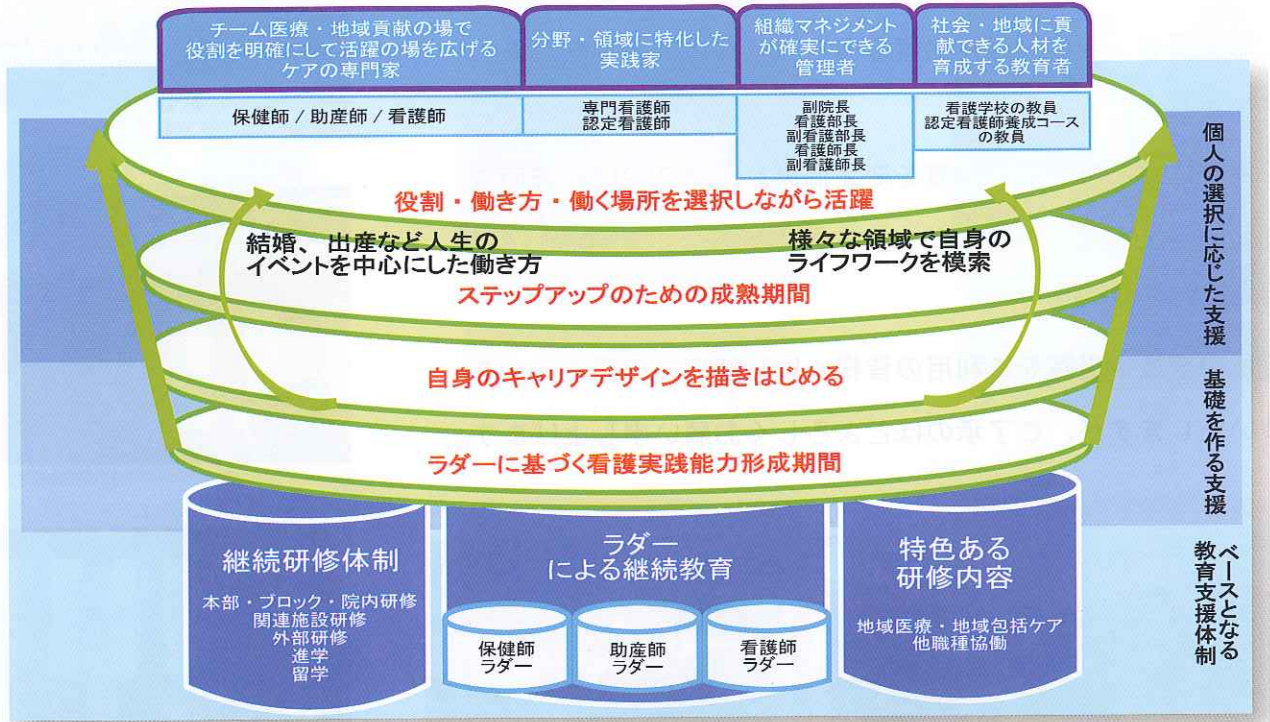
今後ともこれまで同様のご支援をよろしくお願いいたします。



看護部より

JCHO では、これからのチーム医療・介護のキーパーソンとして、超高齢化社会における地域住民の多様なニーズに応じて一人ひとりの生活を支える看護職を育成します。

JCHO の看護職におけるキャリアデザイン イメージ



新体制になりました
よろしくお願いたします



総看護師長
川崎 通子



副総看護師長
入部 直子

看護部理念

『心の通う利用者中心の看護』

基本方針

1. 利用者・ご家族の人権を尊重し、コミュニケーションを大切にします。
2. 地域の皆さんに信頼される安全な看護の実践に努めます。
3. 笑顔とまごころで、心の通う利用者中心の看護を目指します。

平成 27 年度看護師採用 病院説明会等の実施について

■病院説明会実施日程

- ①平成 26 年 6 月 4 日 (水) 午後
- ②平成 26 年 6 月 17 日 (火) 午後
- ③平成 26 年 7 月 25 日 (金) 午後

※その他の日程で希望者がある場合は随時受け付けます。

■インターンシップ実施日程

- ①平成 26 年 8 月 4 日 (月) ~ 5 日 (火)
- ②平成 26 年 8 月 6 日 (水) ~ 7 日 (木)
- ③平成 26 年 8 月 11 日 (月) ~ 12 日 (火)
- ④平成 26 年 8 月 13 日 (水) ~ 14 日 (木)

■採用試験実施日程

平成 26 年 8 月 1 日 (金) 筆記試験・面接予定
※くわしくはお問い合わせください。

総務企画課
TEL : 0942-33-1211 (代)
内線 343/347

新入職者紹介 〈医師〉

平成 26 年 4 月入職



外科主任部長 白水 和雄

日本外科学会指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医、
消化器がん外科治療認定医
日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医、指導医
日本消化器病学会 消化器病専門医、指導医
日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
日本がん治療認定医機構 暫定教育医
日本消化管学会 胃腸科専門医、指導医
久留米大学名誉教授

昭和 49 年久留米大学卒業後、平成 7 年久留米大学外科学講座主任教授に就任。
平成 26 年 3 月に定年退職し、4 月より久留米総合病院に外科主任部長として
勤務しています。大学在職中の実績を生かし、市中病院での大腸癌治療に貢献
したいと思っています。

【白水和雄ホームページ】
<http://www2.ktarn.or.jp/~drkshirouzu/>



腎臓内科医長 岩谷 龍治

日本内科学会認定医
日本透析学会専門医

平成 26 年 4 月より赴任しました。地域医療機関
の皆様と連携し、健康診断での検尿異常から慢性
腎臓病、透析の患者さんまで幅広く診療を行って
いきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいた
します。



腎臓内科医員 名取 千桂

日本内科学会認定医

平成 26 年 4 月より赴任しました名取千桂
です。地域の皆さまのお役に立てるよう頑
張りますので、よろしくお願ひいたします。



消化器内科医員 野田 悠

消化器全般を診させていただいております。
少しでも地域医療に貢献できる様、が
んばります。消化器でお困りのことがあ
りましたら、ご相談ください。



外科医員 朔 周子

いつも笑顔で心がけています。気軽に話
かけてください。



糖尿病内科医員 大塚 由絵

糖尿病合併症の進行を少しでも予防するべ
く、患者さんの力になりたいと思います。
患者さんは病態も、治療の場である生活環
境も十人十色です。お気づきになったこと
は何でもご相談ください。



糖尿病内科医員 下村 杏

皆さんの悩みに耳を傾け、一緒に病気に向
き合っていける医師でありたいと思っ
ています。糖尿病は特に日常生活と密接な関係
があり、日常生活に寄り添った治療、手助
けができるよう、精進いたします。

【平成 26 年 3 月 退職】

腎臓内科 黒川 佑佳 一般 / 西村 太郎
糖尿病内科 中山 聡 消化器外科 津留崎 早也佳
消化器内科 波多野 充明



広報誌名称の変更について

長い間、親しまれてきた「健康第一」ですが、病院名称の変更を機に心機一転、広報誌の名称も変更することになりました。

公募の結果「JCHO くるめニュースほとめき」に決定いたしました。“ほとめき”とは筑後の方言で“おもてなし”という意味で使われます。また、久留米ではこの“ほとめき”という言葉が「ほとめき通り」や「ほとめきの街」というように、街おこしの意味合いでよく用いられています。

この広報誌も久留米から情報を発信したい、ご利用者の皆さんへの「おもてなし」の心を大切にしたいとの思いから名付けました。

幸い、久留米観光コンベンション協会からの許可も頂くことができました。これまで同様、親しみを持って読んで頂ければ、これ以上に嬉しいことはありません。

表紙の写真

富士山をこの目で見るのが長年の私の夢だったのですが、ご縁があって5月の連休に念願の富士山を見に行くことになりました。

河口湖のほとりのホテルに泊まり、早朝にカーテンを開けると・・・、そこには雲ひとつない青空と雄大な富士山、そして見事な逆さ富士。さっそく自慢の一眼レフカメラを構え、撮影。またひとつお気に入りの写真が増えました。＼(^-^)/
(広報委員 岡久 理恵)



6月・7月の主な院内スケジュール

網かけの項目は患者さん対象の教室です。詳細は、ホームページ『教室のご案内』をご参照ください。

6月2日(月)	医局抄読会	7月2日(水)	骨盤底筋体操教室
6月4日(水)	骨盤底筋体操教室	7月7日(月)	医局抄読会
6月9日(月)	感染管理大会	7月8日(火)	糖尿病腎症教室第3回
6月12日(木)	糖尿病腎症教室第2回	7月14日(月)～ 18日(金)	糖尿病教室
6月16日(月)～ 20日(金)	糖尿病教室	7月16日(水)	骨盤底筋体操教室
6月18日(水)	乳がんころとからだおしゃれ教室	7月16日(水)	乳がんころとからだおしゃれ教室
6月25日(水)	乳腺セミナー	7月23日(水)	乳腺セミナー
6月26日(木)	糖尿病セミナー	7月25日(金)	糖尿病教室(試食会)
6月27日(金)	糖尿病教室(試食会)	7月31日(木)	糖尿病セミナー

編集後記

6月、サッカーのワールド・カップブラジル大会がいよいよ開催されます。日本からは、地球の反対側で行われるこの大会を楽しみにしている方もいらっしゃるでしょう。

4月1日朝、田中院長のキックオフ宣言のもと新機構の久留米総合病院、附属介護老人保健施設がスタートしました。これまでの医療スタッフのチームワークの良さを更に生かして、サッカーのスター選手にも勝るとも劣らないリズムで次々へとパス回しをしていきたいと思っています。

(広報委員 三好 悦子)

JCHO くるめニュース ほとめき

〒830-0013 福岡県久留米市櫛原町 21 番地

TEL: 0942-33-1211 FAX: 0942-32-0113

URL: <http://kurume.jcho.go.jp/>

2014年6月発行

発行責任者: 院長 田中 眞紀

編集: 広報委員会